公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信　2015年5月号

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆探鳥会訪問記
（高麗山第338回定例探鳥会）・・・・・・1
◆2014年度「探鳥会リーダーズフォーラム」実施報告・・・・・・・・・・・・・・・・・3
◆探鳥会保険集計結果
（2015年3月分）・・・・・・・・・・・・7
◆普及室からのお知らせ
・新たな『フィールドガイド日本の野鳥』に向けて増補改訂新版の取り組み・・・・・・9
◆今月の購読者数・・・・・・・・・・・・12
◆探鳥会スタッフ通信の購読について・・13
◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・13

◆探鳥会訪問記（高麗山第338回定例探鳥会）

高麗山第338回定例探鳥会（神奈川支部）

日時：2015年4月12日（日）
　　7時30分～11時30分
天候：薄曇り
参加者：24名（男性15名、女性9名）
リーダー：4名
コース：高来神社→高麗山→湘南平

■探鳥会概要

高麗山（こまやま）は神奈川県大磯町（平塚市との境目）に位置し、標高約160m、途中の展望台からは相模湾を一望できます。

今回は高麗山のふもとにある高来（たかく）神社裏から一気に山頂まで登り、尾根沿いを湘南平まで歩くコースでした。気持ちのいい疲れ具合のコースになっていました。

参加者は24名。今回は終了後にお花見宴会もあるので、いつもより参加人数が多かったそうです。

■探鳥会の様子と観察した鳥

茅ヶ崎などの近隣地域からの参加者も多いようで、平塚駅7時発のバスにはそれらしい方々が何組も乗っていました。10分程乗り、花水バス停で下車。途中からお椀を伏せたような形の高麗山が見えてきます。

高来神社はバス停から道を渡ってすぐ。

7時半の探鳥会開始時間になると、リーダーより本日の見どころポイントなどの説明が始まります。この日は夏鳥と冬鳥の両方を楽しめる可能性が大きく、ヤブサメ、キビタキ、センダイムシクイ、オオルリなどの他、なかなか聞くことの出来ないシメの囀りも期待できるとのことでした。

▲新緑の中の高来神社境内

探鳥会では鳥の話だけではなく、変化に富んだ内容を聞くことができ、探鳥会初心者でも十分に楽しめるような工夫がされていると感じました。

▲羽繕い中のヤマガラを観察中

例えば鳥を見ている間にも、咲いている草花の説明があり、
「アオキの木には雌雄があって、しかもこの辺りでは雄の木の方が多いみたいなんだよね」
というお話があったり、
「ブッポウソウのように、鳴き声と名前が合っていない鳥もいるので、面白いけど注意もしないとね」
と野鳥に関するこぼれ話のコーナーがあったりしました。

何より、説明をしてくださる時の軽妙なトークが参加者の気持ちを惹きつけていました。

また、ヤブサメの声は年を取ると聞こえなくなる、と言われていることから、
「〇〇君と俺たちと△△さんとでは違うんだよね～」
と年齢順にわざと名指しで例えて笑いを誘うなど、グループの雰囲気の良さも感じられる探鳥会でした。

観察した鳥は、キジバト、カワラバト（ドバト）、トビ、ハイタカ、コゲラ、アカゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、エナガ、センダイムシクイ、メジロ、シロハラ、アカハラ、キビタキ、オオルリ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ウソ、シメ、アオジ、クロジ、外来種のガビチョウの 28 種類＋１（ガビチョウ）でした。

■参加者の声

以下は探鳥会参加中に雑談の中でお聞きした参加者の声です。

20 代女性：年に一回ある公民館でのイベントを何度か聞きに行き、実際に参加してみたくなったので、2～3 年参加しています。色々知ることが出来るので楽しいです。

40 代女性：20 年間野鳥の会のペーパー会員でしたが、３年くらい前からやっと参加するようになりました。野鳥だけでなく、色んな事に詳しい人がいて厳しく教えて頂いています（笑）

70 代男性：茅ヶ崎から 20 年くらい参加しています。茅ヶ崎は南側が全部海で、ここの方が変化に富んでいて、色んなものが見る事が出来て楽しいです。ただ、最近は特定の種類を狙った、困ったカメラマンが増えてきているのはちょっと問題だと思っています。

親子連れ：お母さん＞本当は私が鳥好きなだけで、息子はついて来ているだけかもしれませんが・・・。
息子さん＞楽しい。

■まとめ

高麗山定例探鳥会は「こまたん」と呼ばれる野鳥観察グループの協力のもと開催されています。探鳥会の途中に、草花の説明や野鳥に関するこぼれ話のコーナーが設けてあったことや、ポイントごとにされる説明がなるべく全員に声が届くように心がけられていた点は、会の HP の紹介にある「初心者を中心に」との言葉に説得力を与えていました。

グループ内の仲の良さを感じるだけではなく、初心者や初参加者に開かれた明るい雰囲気の中での探鳥会でした。

山桜がまだ辛うじて咲き、鮮やかなグリーンやピンクの美しい新芽に彩られた山の中、とても気持ちのいい時間を過ごさせて頂きました。

▲羽繕い中のヤマガラ

（普及室/植木陽子）

◆2014 年度「探鳥会リーダーズフォーラム」実施報告

２月 7～8 日に探鳥会リーダーズフォーラムを実施しました。このフォーラムは、支部やブロックを超えた探鳥会リーダーの横のつながりを作り、探鳥会について自由に議論できる場を作ろうという趣旨で行いました。

ここでは、フォーラムのメインプログラムだった分科会の様子を簡単にご紹介します。なお、議論の内容について記載した報告書もありますので、ご希望の方には別途お送りいたします。メールで(tancho-staff@wbsj.org)まで、「リーダーズフォーラム報告書希望」とお申し込みください。

■概　要

＜時　期＞　2015 年２月７日（土）
13:00～8 日（日）12:00
＜会　場＞　八王子セミナーハウス
（東京都八王子市）
＜対　象＞　支部等連携団体（以下支部）の探鳥会リーダー
＜参加者＞　支部リーダー33 名（探鳥会スタッフ通信で告知して公募）
財団スタッフ 10 名
＜参加費＞　10,000 円（1 泊２日）
＜主　催＞　（公財）日本野鳥の会　普及室

■プログラム

2月7日　13：00　受付
13：30　オリエンテーション・アイスブレイキング
15：00　ワールドカフェ「探鳥会について話そう」
16：30　分科会Ａ（１８時迄）
19：00　夕食、懇親会
2月8日　8：00　朝食
9：30　分科会Ｂ
11：00　まとめ
12：00　終了

＜分科会Ａ（2/7）＞

（１）「雨の日に野鳥ファンを増やそう！室内イベントのすすめ」
（２）「コミュニケーションを大切にする探鳥会の進め方」
（３）「トコロジストのすすめ　～その場所の専門家を目指そう～」

＜分科会Ｂ（2/8）＞

（４）「子どもたちの心に響く親子探鳥会を考えよう！」
（５）「広がれ！若手向け観察会「やってみたい」を応援します」
（６）「会員増の決め手かも！　～会員を増やすための探鳥会を考えよう～」
（７）「探鳥会リーダー研修会について考えよう」

▲集合写真

■各分科会報告（敬称略）

＜分科会Ａ（2/7）＞

（１）「雨の日に野鳥ファンを増やそう！室内イベントのすすめ」

学校からの対応依頼の中に、雨天時の室内対応を求められることが多くなってきた。支部リーダーは室内レクチャーが苦手な人が多く、その対応に苦慮している。一方で、学校対応はこれからの社会を担う子どもたちと接点を持つチャンスでもあるので有効に生かしていきたいとの思いもある。

この分科会は、雨の日でも野鳥ファンを増や

すことができるように、室内プログラムのノウハウを集めてみようという趣旨で企画された。

＜担　当＞ 川端一彦（東京）、大津賀真起子（財団）
＜参加者＞ 糸嶺（東京）、遠藤（栃木）、岡山（奥多摩支部）、奥野（群馬）、鈴木（会津支部）、手塚（栃木）、長江（ひょうご）、馬場（佐賀県支部）、林庭（神奈川支部）、黒川（財団）、林山（財団）、堀本（財団）
＜進　行＞ 財団が発行した「身近な野鳥ティーチャーズガイド」に収録されているプログラムの中から、『神秘の羽～飛ぶための羽～』『神秘の羽～体を守るための羽～』の２つのプログラムが実演され、実演終了後、参加者間でプログラムの展開方法などについて議論した。

（２）「コミュニケーションを大切にする探鳥会の進め方」

探鳥会の中では、リーダーと参加者、参加者と参加者間で様々なレベルのコミュニケーションが行われている。このコミュニケーションが良好に行われている探鳥会ほど、参加者の満足度が高くなることは言うまでもない。しかし、実際にはこれが大変難しい。ほとんどのリーダーがコミュニケーションのあり方について課題を持っているといってもよい。
この分科会は、こうした普遍的なテーマについて、一度各地のリーダーと話し合ってみたいという希望から企画された。

＜担　当＞ 鈴木茂也（神奈川支部）
＜参加者＞ 石亀（東京）、石塚（埼玉）、岡（千葉県）、尾崎（十勝支部）、落合（東京）、小島（東京）、駒田（大阪支部）、児山（会津支部）、曽我（財団監事）、田中（宮城県支部）、長野（栃木）、古田（神奈川支部）、高瀬(財団)、生田（財団）、尾崎（財団）
＜進　行＞ 探鳥会の中で、コミュニケーションがうまくいかないときにどのような問題がおこるのかを整理して、その問題の解決策を話し合った。

（３）「トコロジストのすすめ　～その場所の専門家を目指そう～」

2014 年に財団から「トコロジスト」という書籍が発行された。トコロジストという概念は、神奈川支部支部長だった故浜口哲一氏が提唱し、支部のリーダーをはじめ地域で自分のフィールドを持って活動している人を広く包括する概念である。この分科会は、トコロジストという概念で支部の活動や探鳥会を捉え直して、自分たちのやっていることの価値を再認識しようという趣旨で企画された。

＜担　当＞ 箱田敦只（財団）
＜参加者＞ 青柳（佐賀県支部）、入山（埼玉）、小野（栃木）、鈴木（沼津支部）、寺田（京都支部）、名執（奥多摩支部）、前迫（奥多摩支部）、安西（財団）、江面（財団）
＜進　行＞ 冒頭にトコロジストという考え方について解説があり、その後２つのグループに分かれて、普段の活動の中にあるトコロジストの視点を確認し合った。具体的なフィールドを決めて、そのフィールドに長年かかわり続ける事の重要性を再確認した。

＜分科会Ａ（2/8）＞

（４）「子どもたちの心に響く親子探鳥会を考えよう！」

次世代に活動をつなぐことの重要性が叫ばれながら、実際には子どもを対象とした探鳥会の進め方に不安を覚えるリーダーが多い。そこで、子どもを対象にした探鳥会に関心を持つリーダーに集まってもらい、ノウハウや意見の交換を行う場を設定した。

＜担　当＞ 丸谷聡子（ひょうご）
＜参加者＞ 青柳（佐賀県支部）、遠藤（栃木）、岡（千葉県）、奥野（群馬）、尾崎（十勝支部）、鈴木（会津支部）、寺田（京都支部）、名執（奥多摩支部）、馬場（佐賀県支部）、尾崎（財団）、江面（財団）、大津賀（財団）
＜進　行＞ 長年地域の子どもたちを対象にした環境教育活動を行ってきたひょうごの丸谷氏を講師に迎え、様々な実践事例をお聞きした。その後、実際に野外を歩き、子ども向け探鳥会で使える素材とテーマ探しを行ってみた。

（５）「広がれ！若手向け観察会「やってみたい」を応援します」

ブロック協議会や連携団体全国総会等において、支部のリーダーや会員の高齢化の問題、若者が探鳥会に来ない、来ても長続きしない、リーダーにならない等の話が良く出る。また、若者からは、探鳥会に行っても年齢層が近い参加者が「居ない」あるいは「少なく」、話す相手がいない等の話題が出ている。

一方、東京、大阪支部、栃木では、「若手向け観察会」が行われている。この分科会は、全国的な課題「若者の参加」に対して、この３支部はどのように取り組んでいるのか、そして今後どのようにしていけば良いのか、そのヒントが見出せればとの思いで企画した。

＜担　当＞ 石亀明（東京）
＜参加者＞ 駒田（大阪支部）、小野（栃木）、落合（東京）、古田（神奈川支部）、石塚（埼玉）、長野（栃木）、黒川（財団）、生田（財団）、富岡（財団）
＜進　行＞ 東京、栃木、大阪支部の事例紹介の後、若い人をどのように呼び込み定着させるかについてディスカッションを行った。各支部の取り組みは、誰がどのように実現に向けて動いていったのか。特に、支部の中でどのようにコンセンサスをとっていったのかについて議論した。また今後同種の取り組みをおこなう上での課題を整理した。

（６）「会員増の決めてかも！　～会員を増やすための探鳥会を考えよう～」

2014 年度から、関東ブロックを中心に「会員を増やすための探鳥会」が行われている。実施に当たってはマニュアルが作成され、他のブロックの支部からの問い合わせも増えてきた。

この分科会は、関東ブロックの中で取り組んでこられた東京の川端氏から「会員を増やすための探鳥会」の考え方について紹介していただき、探鳥会を会員獲得の場として捉え直してみようとの試みで企画された。

＜担　当＞ 川端一彦（東京）、堀本理華（財団）
＜参加者＞ 入山（埼玉）、児山（会津支部）、長江（ひょうご）、川端（東京）鈴木（神奈川支部）、曽我（財団監事）、林山（財団）
＜進　行＞ 東京の川端氏より、東京で実施している非会員を対象とした探鳥会の考え方や企画方法、実施方法について解説があり、その後野外へ出て実際に非会員を対象とした探鳥会を実施することを想定した下見会を行った。

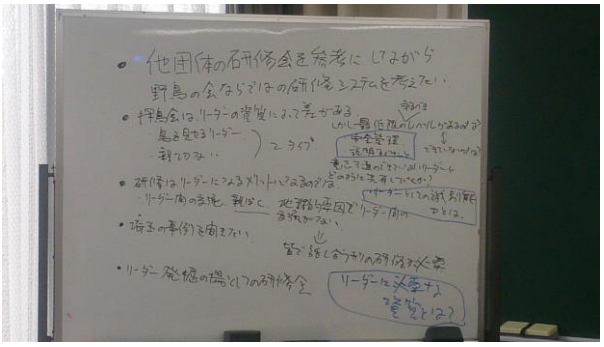
（７）「探鳥会リーダー研修会について考えよう」

探鳥会のクオリティや安定した運営体制について考察していくと、リーダー研修会の必要性が浮かび上がってくる。しかし、全国の支部でリーダー研修会を継続的に実施している支部はほとんどないのが実情だ。この分科会は、埼玉の事例を紹介していただき、リーダー研修会に必要とされる考え方について検討してみようという意図で企画された。

＜担　当＞ 箱田敦只（財団）、手塚功（栃木）、橋口長和（埼玉）

＜参加者＞ 糸嶺（東京）、林庭（神奈川支部）、岡山（奥多摩支部）、前迫（奥多摩支部）、鈴木（沼津支部）、田中（宮城県支部）、高瀬（財団）、

＜進　行＞ 長年リーダー研修会を実施してきた埼玉での取り組みを橋口氏に事例紹介していただき、なぜリーダー研修が必要なのか、なぜ一年に一度の研修を開催してこられたのか、どのように実施するのが望ましいのかについて議論を行った。



日本野鳥の会が 80 周年を迎えるにあたり、全国の探鳥会リーダーが集い、探鳥会について様々なテーマで議論を行うことができたことは大変有意義だったと思います。

今回のフォーラムでは、その企画段階から、栃木、東京、神奈川支部のリーダーのみなさんに参画していただきました。支部の視点で、支部に必要な内容を企画することができたと思っています。

その一方で反省点としては、比較的規模の大きい支部の視点が主となってしまい、規模の小さな支部の視点が入っていなかったことや参加者が東京周辺の支部に偏っていたことなどがあります。今後は、どのようにしてこれらの課題を克服していくか、引き続き支部の皆様と知恵を出して工夫を重ねていく所存です。今回参加できなかった方はぜひ来年ご参加ください。そして、今回参加していただいた方は、来年はぜひ分科会を企画する立場でご参加いただければと思います。

（普及室/箱田敦只）

◆探鳥会保険集計結果（2015 年３月分）

３月は 65 支部からご報告をいただき、計 247 回の探鳥会が開催され、のべ 5,447 人が参加されました。

表１.３月の探鳥会保険集計結果（2015 年４月 15 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数（人）	合計人数（人）
		会員（人）	非会員（人）		
小清水	−	−	−	−	−
オホーツク支部	1	18	11	1	30
根室支部	−	−	−	−	−
釧路支部	0	0	0	0	0
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	−	−	−	−	−
旭川支部	0	0	0	0	0
滝川支部	1	8	1	2	11
道北支部	1	2	4	2	8
江別支部	−	−	−	−	−
札幌支部	4	74	37	9	120
小樽支部	2	7	7	2	16
苫小牧支部	−	−	−	−	−
室蘭支部	1	29	7	3	39
函館支部	−	−	−	−	−
道南桧山	1	8	7	5	20
青森県支部	−	−	−	−	−
弘前支部	2	21	5	2	28
秋田県支部	3	33	1	3	37
山形県支部	4	27	19	5	51
宮古支部	−	−	−	−	−
もりおか	1	15	8	4	27
北上支部	0	0	0	0	0
宮城県支部	3	27	19	6	52
ふくしま	2	36	−	4	40
郡山支部	2	25	−	6	31
二本松	0	0	0	0	0
白河支部	1	2	−	2	4
会津支部	−	−	−	−	−
奥会津連合	−	−	−	−	−
いわき支部	1	28	1	1	30
福島県相双支部	−	−	−	−	−
南相馬	−	−	−	−	−
茨城県	12	87	62	19	168
栃木	−	−	−	−	−
群馬	2	44	16	7	67
吾妻	1	17	3	2	22
埼玉	12	234	59	80	373
千葉県	10	123	37	39	199
東京	14	447	13	58	518
奥多摩支部	18	226	30	53	309
神奈川支部	12	218	33	46	297
新潟県	−	−	−	−	−
佐渡支部	−	−	−	−	−

富山	2	49	11	2	62
石川	2	44	2	5	51
福井県	1	6	−	1	7
長野支部	2	46	1	4	51
軽井沢支部	1	13	2	1	16
諏訪	1	15	29	2	46
木曽支部	−	−	−	−	−
伊那谷支部	−	−	−	−	−
甲府支部	2	26	3	4	33
富士山麓支部	1	1	16	3	20
東富士	−	−	−	−	−
沼津支部	1	14	−	2	16
南富士支部	2	49	10	3	62
南伊豆	1	13	1	2	16
静岡支部	4	27	−	6	33
遠江	4	53	4	13	70
愛知県支部	13	162	132	37	331
岐阜	−	−	−	−	−
三重	5	37	5	9	51
奈良支部	4	109	−	8	117
和歌山県支部	1	3	8	3	14
滋賀	3	33	27	6	66
京都支部	4	68	40	6	114
大阪支部	20	309	78	79	466
ひょうご	5	95	100	11	206
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	3	28	13	3	44
島根県支部	1	10	4	1	15
岡山県支部	5	120	41	14	175
広島県支部	6	47	48	16	111
山口県支部	6	46	38	6	90
香川県支部	2	78	27	2	107
徳島県支部	5	48	4	5	57
高知支部	−	−	−	−	−
愛媛	5	35	20	8	63
北九州	−	−	−	−	−
福岡支部	6	91	19	11	121
筑豊支部	1	9	−	1	10
筑後支部	4	47	34	4	85
佐賀県支部	4	46	21	5	72
長崎県支部	−	−	−	−	−
熊本県支部	4	37	6	4	47
大分県支部	2	21	14	2	37
宮崎県支部	2	21	12	2	35
鹿児島	1	19	10	4	33
やんばる支部	−	−	−	−	−
石垣島支部	−	−	−	−	−
西表支部	−	−	−	−	−
全国	247	3,631	1,160	656	5,447

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆普及室からのお知らせ

■新たな『フィールドガイド日本の野鳥』に向けて増補改訂新版の取り組み■

当会発行の『新・山野の鳥』『新・水辺の鳥』は、2013 年発行の改訂版から国連生物多様性の 10 年日本委員会（UNDB-J）推薦の「生物多様性の本箱」に選定されています。『フィールドガイド日本の野鳥』も 2007 年発行の増補改訂版から、「種とは何か？」を説明する際に生物多様性について解説するなどしていますが、この度の増補改訂新版では「はじめに」の段階で生物多様性に触れておきたいと考えました。「はじめに」は会長名になっているので、最終的には柳生博会長に相談して承認を得ましたが、元の文言は当会自然保護室長の葉山政治のアドバイスを得ました。

増補改訂版の「はじめに」には当会の創設者、中西悟堂の精神や野外識別の意義に続いて、持続可能な未来のために自然に配慮した社会や暮らしを考えたいというくだりがあったので、そこに続けて「生物多様性が劣化するなどして、持続不可能とならないようにしなくてはなりません」という文章を追加しました。

高野図鑑とも呼ばれる『フィールドガイド日本の野鳥』ですが、高野没後の 1989 年発行の増補版は、当時、当会の野鳥記録委員会などが中心になって全国の会員の情報や知見を吟味、集約して完成させたものです。その集大成を元に、さらに多くのご協力を得て増補改訂版に至り、新たにさまざまなご協力をいただきこの度の増補改訂新版（以後、新版と記す）となりました。今回は、野鳥誌やこの連載で書いたことがない当会スタッフの協力を紹介させて下さい。

◇オオジシギの尾羽は何枚？

全国の支部報を拝見していると、近年、よく似たオオジシギ・チュウジシギ・ハリオシギの識別根拠として、外側尾羽の形状や模様を確認する例が増えてきました。新版でも外側尾羽の違いを書き足すことにしましたが、元々は高野によるオオジシギの解説では、尾羽の枚数は 16 枚または 18 枚と書かれていました。増補改訂版以後、「14～19 枚で、16 枚と 18 枚が多い」とより詳細になっているのは、当会自然保護室の浦達也の研究によります。今日、風力発電のバードストライク問題で支部に出向くことも多い浦ですが、北海道大学大学院地球環境科学研究科の修士課程では、オオジシギの繁殖に関わる行動を調べていたそうです。

浦曰く・・・文献などを調べていると、ヨーロッパジシギは尾羽の裏側を雌にみせて踊るグランドディスプレイを行い、その尾羽の裏側の白色部分の面積が大きいほど、交尾できる確率が高いというデータがあった。オオジシギもあれほど派手なディスプレイフライトをするのだから、何か雄にしかない形態的特徴があって、その特徴が大きいほど、雌にモテるのではないかと考えた。そこで、許可を得て捕獲し形態計測をし、血液から DNA を採取しての雌雄判定を行い、その結果から性的二型を割り出そうとしたところ、尾羽の枚数には個体差も雌雄差も確認できた・・・

参考文献や協力者で浦のことを記したいのですが、『フィールドガイド日本の野鳥』はあまりに多くのご協力をいただいており、ご協力のすべてを紹介しきれないことを「まえがき」の中で謝辞とともにお詫びした増補改訂版以後、身内の協力については触れていません。新版では、分布図の見直し作業で新たに記録をまとめてくれた佐藤仁志理事長（隠岐諸島）・山本裕自然保護室チーフ（伊豆諸島）だけは名前を出しましたが、その他の協力の例を書いておきます。

◇エゾマツかアカエゾマツか？

ミユビゲラというキツツキは分布図を見ていただけるとわかりますが、旧大陸から新大陸まで非常に広い分布域があるのに、日本では北海道の一部に僅かしかいません。高野は「大雪山系のエゾマツなどの林でわずかに記録がある」と書いていましたが、新版では、エゾマツをアカエゾマツに書き直しました。これは自然保護室の荒哲平の知見によります。モニタリングサイト 1000 の担当者として支部の皆様ともやり取りさせていただいている荒ですが、岩手大学の学生時代に北方森林鳥類調査室が主導したミユビゲラの調査に協力していたそうです。

荒曰く・・・ミユビゲラの声を聞いたことがなかったので、ひたすら可能性のある森を踏査し、定点を張り待ち続けた。海外の文献では、伐採跡地や山火事跡地に多く出現するとあったことを参考に、そういった環境がある森で調査を繰り返したが、1 シーズン必死に調査しても、遭遇できるのはほんの 1～2 日程度。海外の文献には樹皮を特徴的な輪状に剥いで樹液をなめたり、甲虫の幼虫をとると書かれているのに、国内ではそういった採食形態は見られず、採食痕から探すことも困難を極めたが、2008～2013 年にかけて調査を続けた結果、どうやらアカエゾマツの枯死木に依存するように行動圏が移動していることがわかってきた・・・

「図鑑は見るものではなく、読むものだ」と言っていた高野の解説は親切で、的確で、一言一句にまで気を使って書かれています。それを修正するには最新の知見を吟味のうえ、最低限の修正を検討するわけですが、アカの２文字を加えるだけでも、５年に及ぶ調査に基づいており、エゾマツとアカエゾマツが別種として生育環境も異なるなどの確認もしています。

他にも自然保護室では、前述の山本裕に増補改訂の際にカンムリウミスズメの冬羽や分布の解説でアドバイスを求めました。新版に関わるこの連載で触れただけでもバードライフ・インターナショナルのレッドリスト（3 月号）、イイジマムシクイの声の表記（2014 年 12 月号）なども山本に相談して、その助言を元に書いています。新版で書き足したルリオハチクイの観察記録も、山本がストリクスで発表予定の論文を元にしました。

◇デュエットは必ず雄から始まるか？

タンチョウやシマフクロウで全長の雌雄差を検討するために、北海道のレンジャーにデータを集めてもらったことはすでに紹介しました（2014 年 10 月号）が、他にもタンチョウの声の表記などでは原田修チーフレンジャー（鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ）に相談しました。

高野は「雄と雌が並んで雄がコー、雌がカッカッと鳴きあう」と書いていますが、タンチョウ研究の第一人者、正富宏之さんの著作には、コーカッカというフレーズを分析してみると雌が先に鳴く場合とか、２羽の声がうまく噛み合わない場合などさまざまあるように書かれています。私は解説をよりよくしたいという一心で、あらゆる文献や情報をチェックしているので、ついそのようなさまざまも書くべきと思ってしまうのですが、レンジャーから「さまざまを書きすぎると読者を混乱させることもあるのではないか？」と言われ、文字数やほかとのバランスも踏まえて、高野原稿のままとしました。

中村聡チーフレンジャー（ウトナイ湖サンクチュアリ）にも多々相談しましたが、例えばミコアイサの繁殖状況を調べてもらいました。高野は「少数は北海道の湖沼で繁殖する」と書いており、私自身も現地を見に行ったこともありますが、増補改訂作業に入った 2006 年は繁殖が確認できず、「近年は不明」とせざるを得ませんでした。今回は中村レンジャーによって近年も北部で繁殖情報があることがわかったため、新版では高野原稿をやや詳しく「少数は北海道北部で・・・」と書き直すことができました。

また、保全プロジェクト推進室長の田尻浩伸は加賀市鴨池観察館のレンジャー時代にトモエガモを研究し、ストリクスのみならず日本鳥学会でも発表しているので、トモエガモの解説や分布図を見直すにあたり、数々の助言をしてもらいました・・・などなど、当会内部でもさまざまに協力を得ていますが、紙面の都合でここまでとし、前回の最後に間違いがあったので訂正させていただきます。

新版の英名はすべて目録７版に沿わせた例として、ハシブトガラスの英名を Larg-billed Crow と書きましたが、Large-billed Crow でした。お詫びとともに訂正させていただき、ご指摘いただいた読者に感謝申し上げる次第です。

（普及室／安西英明）

▲目録７版における新たな掲載種の図版を、担当された谷口高司さんの了解を得て紹介していますが、今回はヒマラヤアナツバメです。上空をすばやく飛ぶこの仲間は、識別しにくいこともあって追記するか否か悩みましたが、本種は比較的記録が多いこと、広範囲で記録されていることに鑑みて、図版ともども追記することにしました。

◆今月の購読者数

探鳥会スタッフ通信５月号の電子メール版の購読者数は、先月と変わらず 854 名です。支部ごとの購読者数は以下の通りです。

表２．探鳥会スタッフ通信５月号電子メール版の購読者数（2015 年５月１３日現在）

支部	購読者数	支部	購読者数
小清水	1	福井県	10
オホーツク支部	6	長野支部	2
根室支部	0	軽井沢支部	2
釧路支部	2	諏訪	4
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	70	木曽支部	1
旭川支部	4	伊那谷支部	1
滝川支部	1	甲府支部	1
道北支部	1	富士山麓支部	0
江別支部	0	東富士	0
札幌支部	4	沼津支部	3
小樽支部	3	南富士支部	2
苫小牧支部	2	南伊豆	2
室蘭支部	4	静岡支部	3
函館支部	0	遠江	6
道南桧山	2	愛知県支部	33
青森県支部	1	岐阜	5
弘前支部	4	三重	19
秋田県支部	3	奈良支部	1
山形県支部	3	和歌山県支部	2
宮古支部	1	滋賀	19
もりおか	3	京都支部	132
北上支部	2	大阪支部	22
宮城県支部	39	ひょうご	9
ふくしま	2	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	11
郡山支部	1	島根県支部	2
二本松	1	岡山県支部	23
白河支部	2	広島県支部	7
会津支部	2	山口県支部	4
奥会津連合	0	香川県支部	5
いわき支部	1	徳島県支部	5
福島県相双支部	0	高知支部	1
南相馬	0	愛媛	14
茨城県	21	北九州	12
栃木	45	福岡支部	12
群馬	24	筑豊支部	20
吾妻	1	筑後支部	6
埼玉	36	佐賀県支部	4
千葉県	18	長崎県支部	1
東京	49	熊本県支部	5
奥多摩支部	47	大分県支部	2
神奈川支部	18	宮崎県支部	3
新潟県	1	鹿児島	1
佐渡支部	1	やんばる支部	0
富山	3	石垣島支部	1
石川	5	西表支部	2
		合計	854

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の購読について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも購読できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

すっかり初夏の装いの中、夏鳥の歌声とそろそろ親鳥を追いかけるヒナの姿が楽しい季節です。しかし、これからの季節はベテランの方でなくては中々姿を見つけることができません。

そんな時、入門者には是非、普及室渾身の作の小冊子「鳴き声ノート」をどうぞ！

只今、普及室総出で発送作業を頑張っていますので宜しくお願い致します。

（普及室／植木陽子）

日本野鳥の会

探鳥会スタッフ通信　第26号

◆発行

（公財）日本野鳥の会　2015年5月15日

◆担当

普及室　普及教育グループ

〒141-0031

東京都品川区西五反田3-9-23丸和ビル

TEL：03-5436-2622

FAX：03-5436-2635

E-mail：tancho-staff@wbsj.org